

ありがとうと言える子どもを育てる

「いめんなさい」「ありがとうございます」と言えるところを育む。

保育園・認定こども園・幼稚園等の運営費は、保護者からの保育料と国・県・市町村からの税金で賄われており、公費によって事業を行っています。国際社会では、2015年9月に国連でのサミットで「SDGs 持続可能な開発目標」として国際社会共通の17の目標が決められました。

また、2019年10月の消費税率が上がることで幼児教育・保育の無償化が進むことになりました。

宗門（西本願寺）では、仏教徒・念仏者が行う活動のひとつとして、特に〈貧困の克服に向けた Dāna for World Peace →〉—子どもたちを育むために—を宗門の重点プロジェクト実践目標として、「子どもに経験を与え、居場所を作るとともに、地域に住む方々との関係を深めることで、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現を目指す」取り組みを推進しています。

このような状況の中で、自園（社会福祉法人教行福祉会）独自の社会貢献事業として、「赤ちゃん食堂」を2018年8月から月2回、「子ども食堂」を2019年1月から月1回で、導入として「ブレ・子ども食堂」を開店しました。

2018年度が終わり、両食堂の運営を検証するにあたって、国策である「子ども・若者ビジョン」による子どもの区分【①乳幼児期（義務教育年齢に達するまで）、②学童期（小学生）、③思春期（中学生からおおむね18歳まで）】を見たとき、昨今の乳幼児期への社会的関心の深さと行政の手厚い施策はより一層深まっていますが、一方で思春期とされる中学生以上への施策は大変薄い現状があります。

この観点から、2019年度からの自園での「子ども食堂」については、中学生以上を対象とした活動に移行することとしました。この多感な思春期にこそ、動物・魚・植物のいのちをいただいていること、そして、食事が私たちの胃袋に入るまでには多くの苦労と協力をいただいていること、また、土・水・太陽などの自然のめぐみにより育てられたもので生かされていることを、この「子ども食堂」で感じ、「多くのいのちをいただいてごめんなさい。そして、ありがとうございます」ということにあらためて気付き、仏さまの「ご恩」を深く喜ぶ心が育てばと考えています。

食後のゆつたりとしてありがたい雰囲気の時間帯は、全員が絵本や紙芝居を選び「読み聞かせ会」を行っています。このことにより、「いただきます」や「ありがとうございます」の意味あい、いのちの尊さやのちのつながり、そして、仏さまを敬い身近に感じることが、ほっこりとした時間・空間の中で育ち始めています。

乳幼児期から始まり、学童期そして思春期と成長して、青年期・大人と、この仏さまを大切にする心が育ち続けてほしいと願っています。

合掌

まことの保育の願い